

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 松原 浩


論 文 題 目

Dynamic Quantitative Evaluation of Contrast-Enhanced
Endoscopic Ultrasonography in the Diagnosis
of Pancreatic Diseases


(膵臓疾患診断における造影超音波内視鏡の経時的・定量的評価)


論文審査担当者

主 査 委 員

名古屋大学教授
長 総 恒 

名古屋大学教授
委 員 小 寺 泰 弘 

名古屋大学教授
委 員 柳 野 正 人 

名古屋大学教授
指 導 教 授 後 藤 秀 実 

論文審査の結果の要旨

膵疾患に対する画像診断は多岐にわたるが、現在もその診断は容易ではない。超音波内視鏡検査（EUS）は高い空間分解能およびコントラスト分解能を有する画像診断法であり、死角のない膵臓全体および対象病変の詳細な観察が可能である。

本研究では、造影超音波内視鏡を行いTime-intensity curve を作成することにより、膵癌、自己免疫性膵炎、腫瘍形成性膵炎、膵神経内分泌腫瘍を含む91例の膵臓疾患に対して定量的解析を行った。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 造影超音波内視鏡検査において、膵癌は自己免疫性膵炎、腫瘍形成性膵炎、膵神経内分泌腫瘍に比べ、造影開始から1分後のエコー輝度の減少率は、統計学的有意差を持って大きい。
2. 造影超音波内視鏡検査における、膵癌の1分後のエコー輝度の減少率が大きいものほど分化度が高い傾向にあり、造影エコー輝度の減少率と病理組織学的分化度は関連があることが示唆された。
3. 超音波内視鏡検査における B-mode 診断、造影パターン診断に定量的評価を加えることで、高い膵臓良悪性疾患診断成績が得られた。
4. 造影超音波内視鏡検査における観察時間は、造影開始から5分間としており、肝臓における第二世代超音波造影剤 Sonazoid® の取り込みによる影響は少ないと考えられた。
5. 造影CT 検査は、経時的に造影剤注入前、注入後25秒後、45秒後、70秒後、120秒後に撮影した。

本研究は、膵臓良悪性疾患診断の向上に重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。